

2023 年 12 月 25 日

修成建設専門学校
校長 堤下 隆司 様

学校関係者評価委員会
委員長 藤田 晴樹

学校関係者評価委員会報告書

令和 5 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 評価者

令和 5 年度 学校法人修成学園 学校関係者評価委員

委員名簿 (敬称略・順序不同)

丸山 徹	卒業生保護者
相賀 勝	元吹田市理事
藤田 晴樹	株式会社ジェイネット 代表取締役
市岡 武	村本建設株式会社 常任顧問
大槻 憲章	NPO 法人おおさか緑と樹木の診断協会 理事長
田中 文雄	大和田振興町内会 会長
大和 正	学校法人興國学園 興國高等学校 渉外顧問統括 校務運営委員長
壺山 和憲	壺山建設株式会社 取締役社長

2. 評価期間

令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日

3. 委員会の開催状況

第一回委員会 令和 5 年 10 月 10 日 (会場 修成建設専門学校 146 教室)
第二回委員会 令和 6 年 2 月 13 日 (会場 修成建設専門学校 146 教室・実施予定)

4. 学校関係者評価委員会報告

令和 5 年 10 月 10 日に開催された委員会において、修成学園山下理事長、堤下学校長、各学科長、経営戦略室長、事務局長、及び広報部長代理より、令和 4 年度の業務について自己評価報告書に基づき報告を受け、評価内容の確認を行った。また委員各自が、自己評価報告書に示されている評価項目に対し「自己評価結果」「改善に向けた取り組み」「今後の改善方策」について採点(4 点満点)を行い、その結果を示した。さらに、委員各位からの意見をとりまとめ報告書とする。

5. 採点結果(平均値)

調査項目	自己評価 結果	改善に向けた 取り組み	今後の 改善方策
基準 1 (教育理念・目的・育成人材像)	4.00	4.00	4.00
基準 2 (学校運営)	4.00	4.00	4.00
基準 3 (教育活動)	4.00	4.00	4.00
基準 4 (修学成果)	4.00	3.86	3.86
基準 5 (学生支援)	4.00	3.86	3.86
基準 6 (教育環境)	4.00	4.00	4.00
基準 7 (学生の募集と受け入れ)	4.00	3.86	4.00
基準 8 (財務)	4.00	4.00	4.00
基準 9 (法令等の遵守)	4.00	4.00	4.00
基準 10 (社会貢献)	4.00	3.86	3.86
総計	4.00	3.94	3.96

6. 意見

-
- ・基準 3 は、大概適切であると評価させていただきましたが、建築学科第 1 本科(昼)において昨年より進学者が減少している要因を追及していただきたい。
 - ・基準 4 で、学園の現状は建築系が大半を占め、土木系の生徒数が少ない。2025 年に大阪市内で万博が開催され、それ以降建築ラッシュは落ち着き土木系の仕事が多くなるのではないかと思います。本学園に於いても来年から工夫していただき土木系の生徒を確保していただきたい。
 - ・基準 4 で、資格免許の中でドローン操縦技能講習会を今迄以上に充実した講習にし、合格率アップの為、企業共連携を密にし、資格取得に向けて応援したいと思います。
 - ・日本中の企業に人材不足の波が押し寄せてきております。建築・土木業界も技術者の不足が数年前から顕著に表れています。今後は優良な大手企業からの求人が増加すると思われます。これに対応するためにも学校としてはこれまで以上に優れた教職員を育成し学生の能力向上に努めて頂きたい。又、インターンシップをもっと積極的に行い企業と連携を築いていく必要があると感じております。学生と企業とのミスマッチを防ぐための重要な取り組みの一つでもあると思います。これからも建設という職業を通じて社会に貢献する人材を育ててください。
 - ・学生、教員確保が難しい中、各科目で変化に対応した工夫や改善を適時実施し、修学成果や就職状況に結果を出しており、社会的な役割を果たしていると言える。毎年、若干名の退学者があるが入学した全員が、無事卒業出来る事を願います。
 - ・先生方には、コロナ禍の大変な時期にもかかわらず学生の一人ひとりに目を注いで熱心に教育に取り組んでおられることが理解でき、敬意を表します。少子化で生徒数も伸び悩むであろうこれからを考えると、貴校の優れた教育内容をより広く認識してもらえることが重要になってくると考えます。そういう点でも外部から関わらせていただいている私たちもPRの一端を担っていく必要があろうと認識しています。
 - ・ストロングポイントとして、学生指導に弱点シートやスタディマップの活用を行い学生さんに沿った指導が出来、学びの進捗の可視化も出来しっかりフィードバックも出来ている。又修成教育研究所の設置も在校生のみならず社会に出た生徒のスキル、絆等にも有効。又、土木系学科のドローン操作の取り入れでこれからの社会での応用性多様性についてのご指導や創造性の指導も可能で社会ニーズに対応出来ている。全般的に改善に向けた取り組みや今後の改善方法も適切と考える。
 - ・日頃の学校上げでの成果がこの報告書に結集されているものと見させて頂いております。特に教育活動やそれに伴う修学成果の報告で知る事が出来ました。ただ、学生支援では入学生のミスマッチによる中途退学希望生徒への対応の点で、例えば転コースなどを体験させ、新天地を発見させる事は可能なのでしょうか。また、社会貢献という見地から、一部地域貢献の具体例がありましたが、学校主体では無く、今後実施出来るかは別として、学生達が主体となって発案、実行のプランニングを考えてもらい、将来に活かせる糧になればと思いますが、如何でしょう。

以上